



第4回 子どもの健康・生活実態調査

平成30年度 報告書【概要版】

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためにはまず、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが必要と考え、本調査を実施しております。この度、平成30年度第4回の調査概要がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

今後は本調査結果を踏まえ、子どもたちの未来につながる施策の一層の充実をはかってまいりますので、引き続き区政ならびに教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

足立区長 近藤 やよい
足立区教育委員会 教育長 定野 司

調査の概要

- ◆ 調査対象：区立小学校に在籍する4年生（全員）、6年生（一部）、
区立中学校に在籍する2年生（一部）

	小4	小6	中2	合計
調査票配付数	5,311	618	676	6,605
集計・分析対象数 (有効回答率)	4,290 (80.8%)	514 (83.2%)	583 (86.2%)	5,387 (81.6%)

※保護者と子どもがそれぞれ回答

- ◆ 調査時期：平成30年10月 ◆ 調査校数：小学校69校（一部実施学年は9校）、中学校7校
- ◆ 実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票や回答票の配付・回収を行い、東京医科歯科大学と国立成育医療研究センター研究所が結果の集計・分析を行いました（一部、学校身体測定・歯科健診の結果を分析に用いています）。

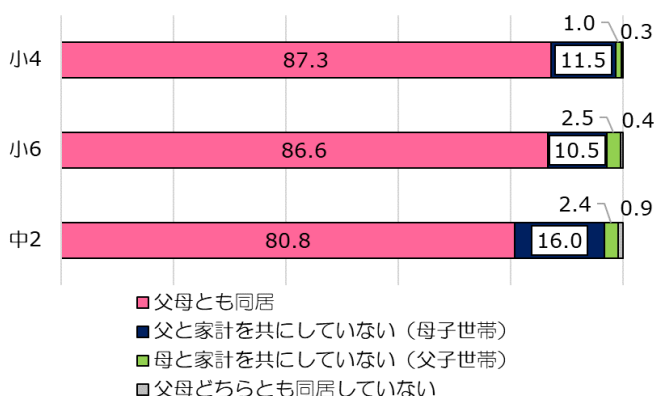
世帯の構成・経済状況について

※各グラフの数字は、パーセンテージです。

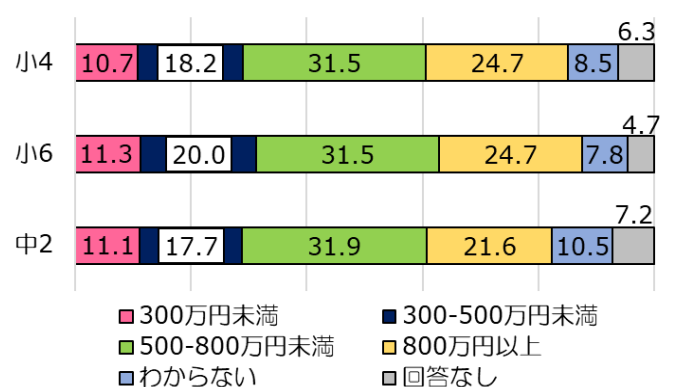
父母が同居している世帯は小4と小6で約87%、中2約81%と学年が上がるごとに減少し、母子、父子世帯が増えています。

世帯年収300万円未満の世帯は、全学年で約11%です。

【世帯構成】 ※回答者 いずれも保護者



【世帯年収】 ※回答者 いずれも保護者



調査項目は中面をご覧ください

子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

区立小学校4・6年生と区立中学校2年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。

ここでは、代表的な項目についてのみ記載しています。

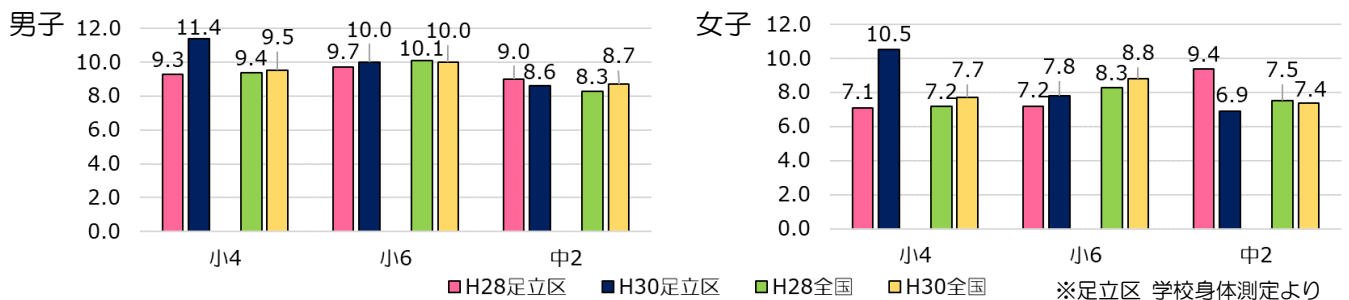
さらに詳しいデータは、足立区公式ホームページをご覧ください（平成31年4月下旬以降に掲載予定）。

※各グラフの数字は、パーセンテージです。

子どもの健康について -肥満・むし歯-

① 【肥満傾向】

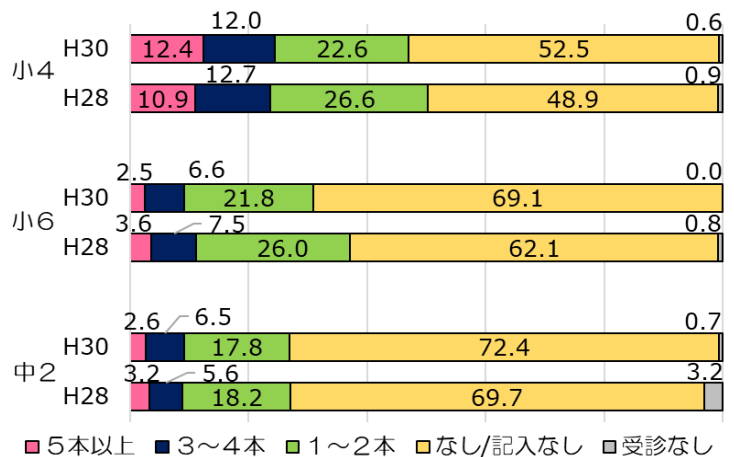
肥満傾向の子どもの割合は、男子の小4、女子の小4で全国平均より高くなっています。28年度と比べると、中2では男女ともに減少しました。



② 【むし歯の本数】

歯科健診の結果では、むし歯が1本でもある子どもは、小4で47%、その後、永久歯に生え変わるため減少し、むし歯が1本以上ある割合は、小6約31%、中2約27%でした。

28年度と比べると、むし歯が1本以上ある子どもの割合は、すべての学年において減少しています。

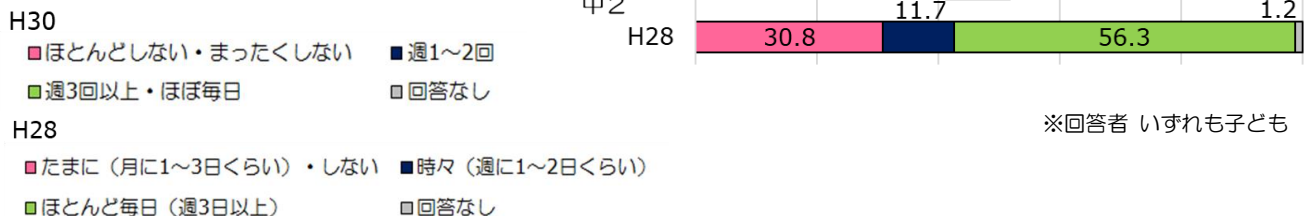


生活習慣について -運動習慣-

③ 【運動習慣（学校での体育を除く）】

1週間でほとんど・全く運動しない子どもは、小4約12%、小6約19%、中2約33%と学年が上がるほど増加しています。

28年度と比べると、運動習慣のない子どもの割合は、小4と小6で減少しました。



子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

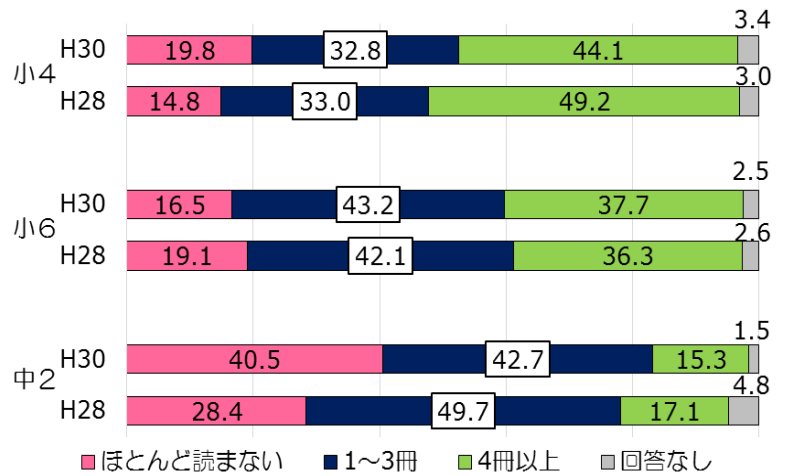
※各グラフの数字は、パーセンテージです。

生活習慣について -読書習慣-

④ 【読書習慣】

最近1か月で1冊も本を読んでいない子どもは、小4 約20%、小6 約17%、中2 約41%でした。

28年度と比べると、小4と中2では読書習慣のない子どもの割合は増加しましたが、小6では減少しました。



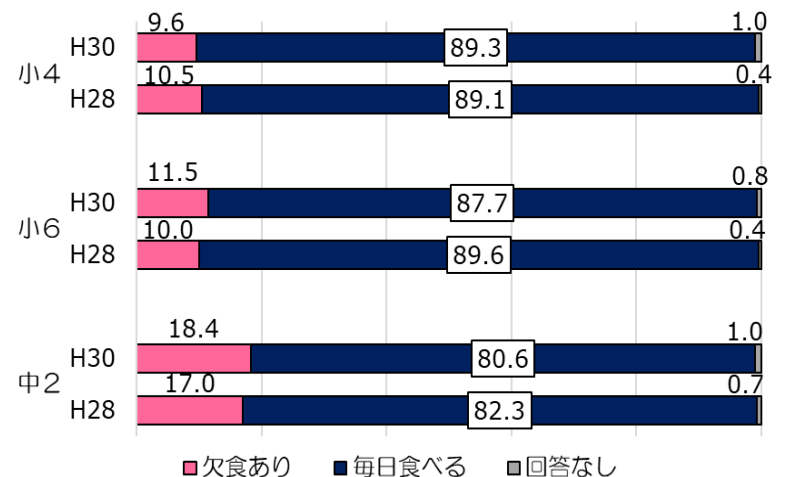
※回答者 いずれも子ども

食生活について -朝食摂取・食べる順番-

⑤ 【朝食摂取】

朝食を毎日食べる習慣のない子どもは、小4 約10%、小6 約12%、中2 約18%と学年が上がるごとに増加しています。

28年度と比べると、小4では朝食を毎日食べる習慣のない子どもの割合は減少しましたが、小6、中2では増加しました。

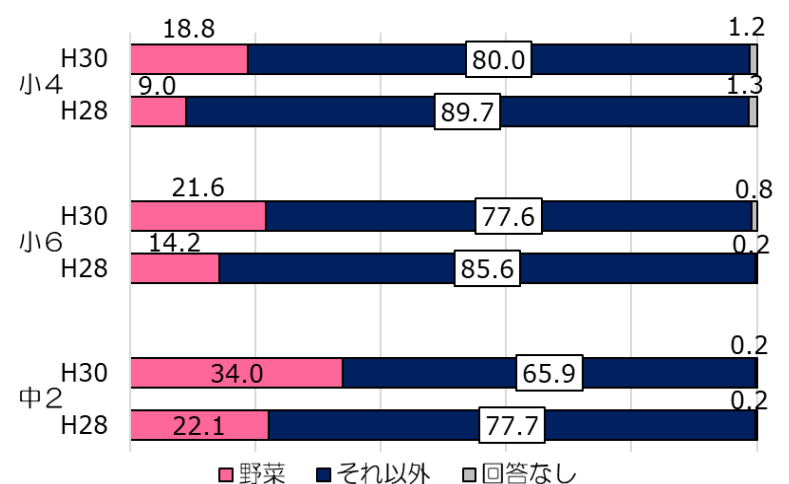


※回答者 いずれも子ども

⑥ 【食材を食べる順番】

野菜から食べている子どもは、小4 約19%、小6 約22%、中2 約34%でした。

28年度と比べると、すべての学年で、野菜から食べている子どもの割合が増加しました。



※回答者 いずれも子ども

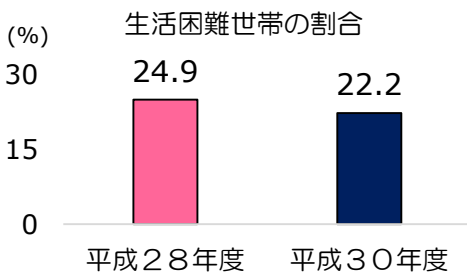
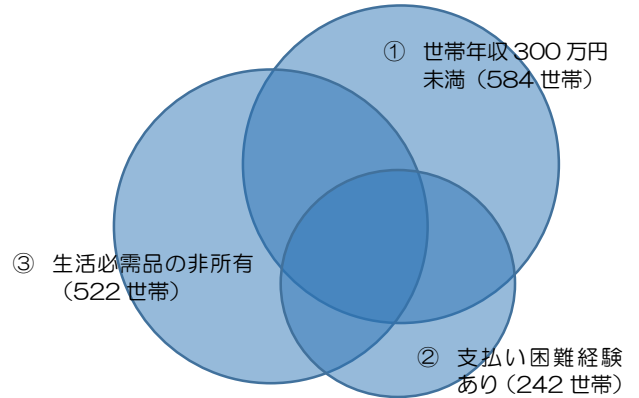
子どもの健康・生活と生活困難の関連

本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、子どもがおかれた家庭環境全体で把握すべきであると考え、次のいずれか一つでも該当する場合を「生活困難」世帯と定義し、子どもの健康・生活に生活困難がどの程度関連があるかを調べました。

※各グラフの数字は、パーセンテージです。

生活困難とは

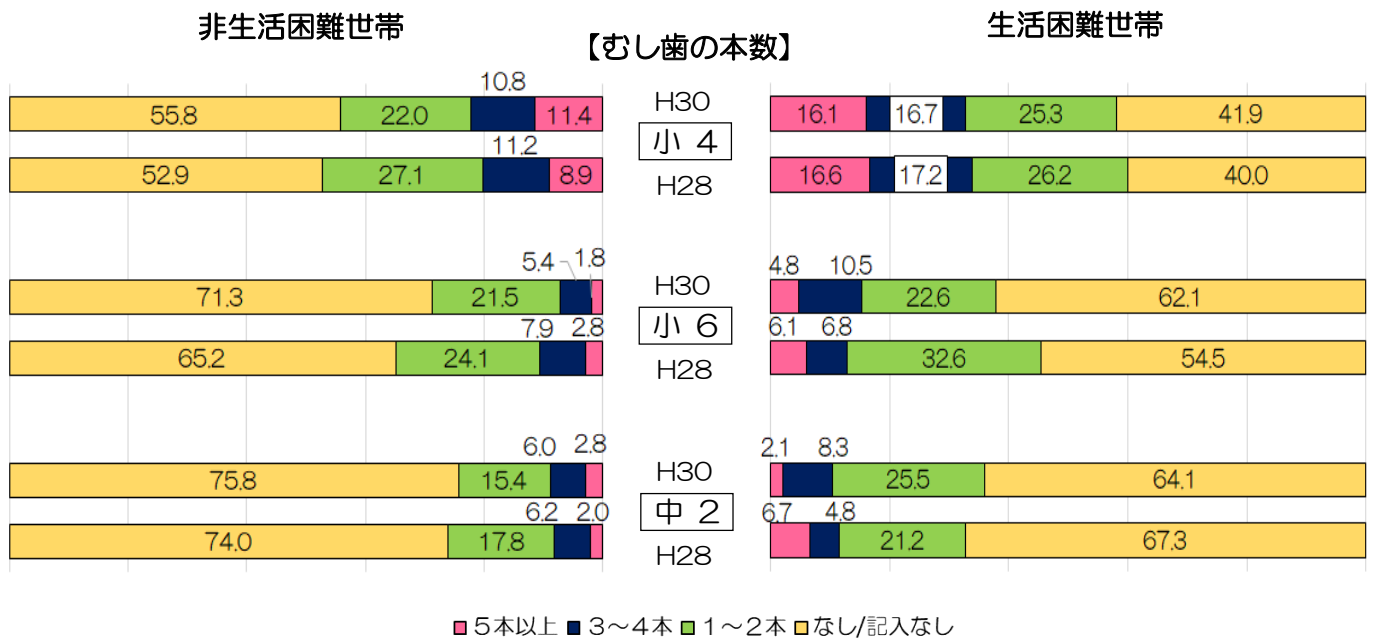
- ① 世帯年収300万円未満の世帯
- ② 生活必需品の非所有世帯（子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど）
- ③ 水道・ガスなどのライフライン等の支払い困難経験世帯



今回の調査の結果、「生活困難」世帯の条件に該当した数は、1,198世帯(22.2%)です。平成28年度の24.9%から2.7ポイント減少しました。内訳は、小4 928世帯(21.6%)、小6 124世帯(24.1%)、中2 146世帯(25.0%)です。

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

生活困難が子どもの健康や生活にどの程度関連があるかを調べるために、むし歯や朝食の摂取状況等について、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。



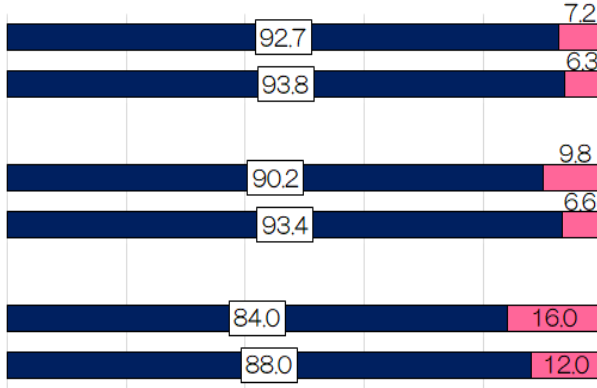
生活困難世帯のむし歯を5本以上有する子どもの割合は、非生活困難世帯と比べると、小4、小6の子どもにおいて約3~5ポイント高いことがわかりました。

しかしながら、28年度と比べると生活困難世帯の小4、小6では、むし歯を1本以上保有する子どもの割合は、減少していました。

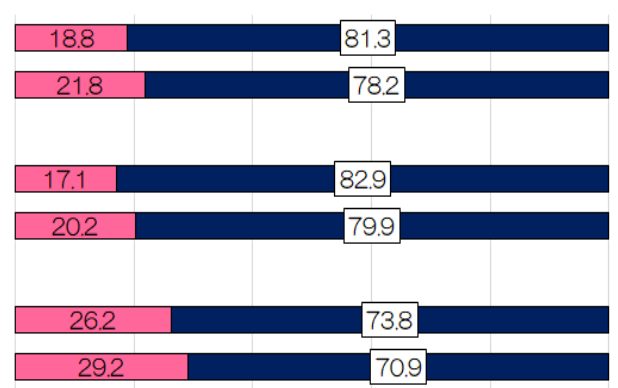
非生活困難世帯

【朝食摂取】

生活困難世帯



H30
小4
H28
H30
小6
H28
H30
中2
H28



■ 欠食あり ■ 毎日食べる

生活困難世帯では、20～30%の子どもが朝食を毎日食べていないことがわかりました。

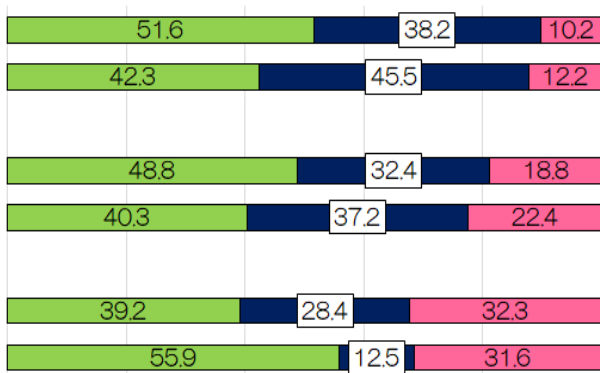
欠食のある子どもの割合が増加しているのに対して、生活困難世帯では割合が減少しており、その差が縮まっていることが明らかとなりました。

28年度と比べると、非生活困難世帯では、朝食

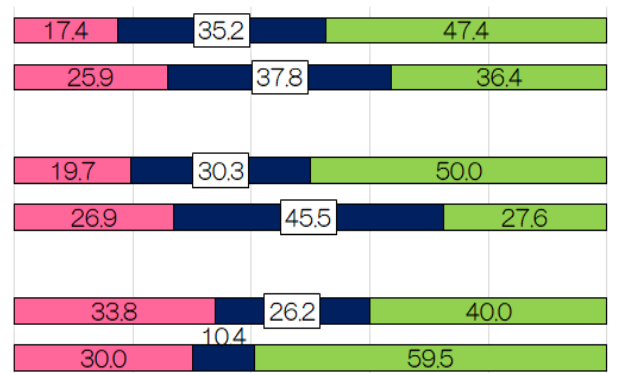
非生活困難世帯

【運動習慣】

生活困難世帯



H30
小4
H28
H30
小6
H28
H30
中2
H28



<H30>

■ ほとんどしない・まったくしない ■ 週1～2回
■ 週3回以上・ほぼ毎日 ■ 回答なし

<H28>

■ たまに(月に1～3日くらい)・しない ■ 時々(週に1～2日くらい)
■ ほとんど毎日(週3日以上) ■ 回答なし

30年度の結果を非生活困難世帯と生活困難世帯で比較すると、小4では週3回以上の割合の差が約4ポイントあるのに対し、小6・中2では

約1ポイントと差は小さくなっています(両年度で設問が異なるため比較はできませんが、28年度の結果も参考として掲載します)。

【逆境を乗り越える力(自己肯定感・自己制御能力など)】

逆境を乗り越える力の平均得点は、非生活困難世帯では約70点であるのに対し、生活困難世帯では約65点となり、生活困難世帯では約5点低いことがわかりました。

得点分布をみると、高い得点の子どもは、生活困難世帯にも一定程度いることがわかりました。

(%)

10.0

8.0

6.0

4.0

2.0

0.0

0

得点区分毎の人数割合(小4)

25

50

75

100

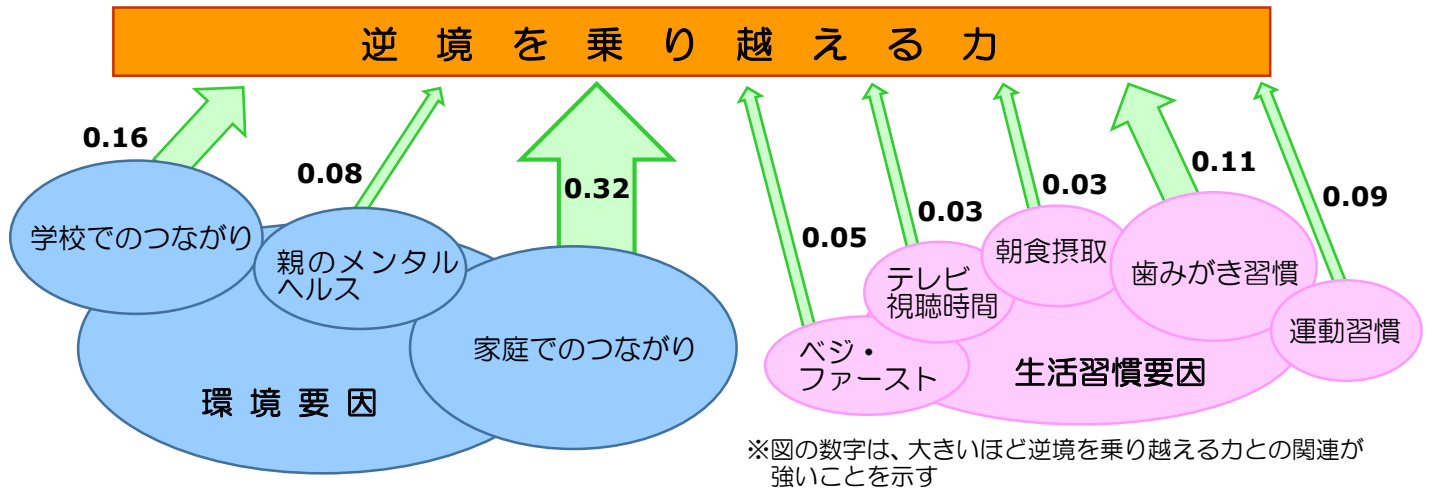
■ 生活困難世帯

■ 非生活困難世帯

New!

良い環境や生活習慣が逆境を乗り越える力を育みます

逆境を乗り越える力には、子どもにとって学校や家族という時間が楽しいと思えるような環境や、歯みがき・運動習慣などの生活習慣が強く関連していることが分かりました。



本調査とこれまでの調査の結果から見てきた傾向

<平成 27 年度調査結果> <平成 28 年度調査結果> <平成 29 年度調査結果> <平成 30 年度調査結果>

<p>困ったときに保護者に相談できる相手の存在、また運動や読書習慣の習得が、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性が明らかになりました。</p>	<p>子どもが地域活動に積極的に参加して経験・体験を積み、ロールモデルとなる大人とかかわることで、逆境を乗り越える力を培える可能性が明らかになりました。</p>	<p>食事を野菜から食べるというちょっとした意識づけによって、肥満を予防できる可能性が明らかになりました。今後、さらなる普及・啓発に取り組みます。</p>	<p>家庭や学校の環境や、運動・歯みがき習慣、朝食摂取、食事を野菜から食べるなどの好ましい生活習慣が、逆境を乗り越える力と強く関連していることが分かりました。</p>
--	---	--	--

「未来へつなぐあだちプロジェクト」に調査結果を反映していきます。

本調査から得られた結果は、区が策定する「未来へつなぐあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」に反映し、各所管で共有します。この計画をもとに、全ての子どもたちが将来に夢や希望の持てる地域社会の実現を目指すため、子どもに好ましい生活習慣が身につくよう支援するとともに、保護者支援や子どもが地域につながり、経験や体験を積む機会を増やす施策等を充実させてまいります。

■窓口のご案内■ 子どものことや心身のこと等でお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

- **こども・子育てについて悩みがあるとき**
 <こども支援センターげんき>
 03-3852-3535
- **なんとなく心や体が不調なとき**
 江北保健センター 03-3896-4011
 千住保健センター 03-3888-4278
 竹の塚保健センター 03-3855-5082
 中央本町地域・保健総合支援課
 03-3880-5352
 東部保健センター 03-3606-4171
 東京都立精神保健福祉センター 03-3844-2212
- **生活や仕事に悩みがあるとき**
 <くらしとしごとの相談センター>
 03-3880-5705
- **パートナーからの暴力や嫌がらせの悩み**
 <男女参画プラザ>
 女性相談(予約制) 03-3880-5223
- **どんな相談でも**
 <よりそいホットライン>
 0120-279-338

■詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。

平成 31 年 4 月
下旬以降に掲載予定



発行：足立区・足立区教育委員会（平成 31 年 3 月）
 編集：足立区衛生部 ころとからだの健康づくり課
 国立大学法人 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 国際健康推進医学分野
 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部
 問合せ：電話 03-3880-5433
 ファクス 03-3880-5602（足立区衛生部ころとからだの健康づくり課）